

轟の滝

塩田川と岩屋河内川が合流する場所にある轟滝。轟滝の起源は、2500 万年前の波多津頁岩層という堆積岩の上に、数百万年前に火山活動が始まったことによります。滝の流域面積は 2,500 平方メートル。轟（とどろき）という名前は、轟（とどろく）という言葉に由来しており、滝の轟音を表しています。

滝は 3 つの層で構成されています。上の 2 つの層はそれぞれ 3 メートルの高さであり、下の 1 つは 5 メートルで、滝の総高さは 11 メートルです。

春の轟の滝では、桜の花を背景に色とりどりの滝を楽しむことができます。また、川の水深が浅いため、子供たちの遊び場としても人気があります。

龍神と弁財天

轟の滝の龍神が、15 キロ離れた白石町の縫ノ池と滝を結ぶ地下水を通して、恋の女神弁財天に会いに行ったという伝説があります。しかし、農業用の地下水の汲み上げにより、1958 年（昭和 33 年）に縫ノ池が干上がってしまい、龍神が歩んできた道は閉ざされてしまいました。2000 年に過剰な汲み上げが中止されると、湖は再び満水になり、龍神は再び弁財天を訪れることができるようになりました。長い別れの後の再会は、弁財天を泣かせたと言われています。

不動明王

滝の中央には、大乘仏教の明王の一人である不動明王（アカラ）の像が立っています。この守護神の中でも最も一般的に描かれている不動明王の特徴は、左手に魔物を捕らえる投げ縄、右手に魔物を滅ぼす剣を持ち、背後には怒りや情熱を燃やして心を清める大炎を持っていることである。第二次世界大戦中の 1944 年、大乘寺の僧侶が、この場所が神聖な場所であることと、川が海に通じていることから、海上で兵士を守るために、この場所に像を建立することを提案しました。